

家畜改良センター茨城牧場 給餌マニュアル (種雄豚)

第2版

令和3年6月

1 BCS評価と判定の目安

	BCS		背脂肪P2点 (mm)	判定の目安
1	著しくやせ過ぎ		10～12	- 手のひらで強く押すと、背骨、胸郭、腰角がすぐ分かる - 腰肉がくぼんでいる - 尻尾の付け根がへこんでいる
2	やせ過ぎ		12～14	手のひらで強く押すと、背骨、胸郭、腰角がすぐ分かる
2.5	細め		15～16	- やせているが見かけは良い - 指先で背骨の周りを強く押すと腰角に触れる
3	正常		17～18	- 背骨と肋骨は3秒押しても探すのは困難 - 指先で背骨の周りを押すと、はじかれる感じがする - 胴体と首部分の肉付きが厚くなっている - 後ろ姿は丸く見え、尻尾の周りにはへこみはない
3.5	やや太め		18～20	低産歴の母豚では腰角に触れるのは非常に困難である
4	太め		21～23	- 強く押しても背骨や肋骨に触れるのは非常に困難である - 背骨の表面は指先が簡単に押し込める（脂肪の蓄積が多い） - 胴体と首の肉付きが目立って厚くなっている - 尻尾の根元は周囲の脂肪に埋もれるようになっている - 産歴にかかわらずいずれも腰角に触れることはできない - もも肉の後部に脂肪が詰まっている
5	太り過ぎ		25 以上	- これ以上の脂肪の蓄積は不可能である - 目視評価で明らかに過肥であると分かる - 母豚が立ち上がるのに悪戦苦闘している

※ この表は、種雌豚の表であることに注意。

(John Gadd 2002)

種雄豚はBCS 2.5～3.0 を目標とする。

2 飼料

(1) 給餌量の目安

♂: 2.2kg/日を上限とする。

注1) 過肥になると、擬牝台に乗れなくなる恐れがあるため、BCSを確認しながら調整する。

注2) 冬場は 2.6kg～2.8kg/日ほどまで増量し、痩せすぎないようにする。

以下の表を参考にし、給与量を調整する。

豚舎	確認する箇所	給餌量の目安
♂♀豚舎	ホッパー左メモリ	メモリ1で約 0.9kg
種雌豚舎	ホッパー右メモリ	メモリ1で約 0.6kg
5分豚舎	スコップ手やり	スコップ1杯で約 1.0kg

注3) 給与飼料の銘柄によって比重が異なる場合があるため、飼料が変更になった場合や交配期が始まる前には、ホッパー1メモリ、スコップ1杯の重量を確認する。

(2) 添加飼料(必要に応じて給与)

サウマンナ: 夏場に食欲が落ちている個体や、精液の状態が悪い個体に添加する。

パームファット: 痩せすぎている個体に添加する。

参考文献: 豚飼養管理マニュアル〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕

日本飼養標準 豚 (2013 年版)

繁殖管理ベーシック 2005 未経産豚管理のワンポイント

(以上)

家畜改良センター茨城牧場 給餌マニュアル (種雌豚)

第2版

令和3年6月

1 BCS評価と判定の目安

	BCS		背脂肪P2点 (mm)	判定の目安	
1	著しくやせ過ぎ		10～12	- 手のひらで強く押すと、背骨、胸郭、腰角がすぐ分かる - 腰肉がくぼんでいる - 尻尾の付け根がへこんでいる	目標体型↑↓
2	やせ過ぎ		12～14	手のひらで強く押すと、背骨、胸郭、腰骨がすぐ分かる	
2.5	細め		15～16	- やせているが見かけは良い - 指先で背骨の周りを強く押すと腰角に触れる	
3	正常		17～18	- 背骨と肋骨は3秒押しても探すのは困難 - 指先で背骨の周りを押すと、はじかれる感じがする - 胴体と首部分の肉付きが厚くなっている - 後ろ姿は丸く見え、尻尾の周りにはへこみはない	
3.5	やや太め		18～20	低産歴の母豚では腰角に触れるのは非常に困難である	
4	太め		21～23	- 強く押しても背骨や肋骨に触れるのは非常に困難である - 背骨の表面は指先が簡単に押し込める(脂肪の蓄積が多い) - 胴体と首の肉付きが目立って厚くなっている - 尻尾の根元は周囲の脂肪に埋もれるようになっている - 産歴にかかわらずいずれも腰角に触れることはできない - もも肉の後部に脂肪が詰まっている	
5	太り過ぎ		25 以上	- これ以上の脂肪の蓄積は不可能である - 目視評価で明らかに過肥であると分かる - 母豚が立ち上がるのに悪戦苦闘している	

※見た目の体型は品種・系統間で差が大きいため、必ず背骨や腰角の触診を行うこと。

(John Gadd 2002)

- (1) 交配前～妊娠初期は、BCS 3.0 を目標とする。
- (2) 妊娠中期は、BCS 3.0 を維持する。
- (3) 妊娠後期は、BCS 3.5～4.0 を目標とする。
ただし、デュロック種はBCS 3.5を上限とする。

腰角の位置



(John Gadd 2002)

2 飼料

(1) 給餌量

ランドレース種と大ヨークシャー種については、2.4kg/日を最低量とする。

デュロック種、中ヨークシャー種、梅山豚については、2.0kg/日を最低量とする。

また、交配期と妊娠期の給餌量については、別紙のとおりとする。

以下の表を参考にして、給餌量を調整する。

豚舎	確認する箇所	給餌量の目安
♂♀豚舎	ホッパー左メモリ	メモリ1で約 0.9kg
種雌豚舎	ホッパー右メモリ	メモリ1で約 0.6kg
4分豚舎	スコップ手やり	スコップ1杯で約 1.0kg

※ 給与飼料の銘柄によって比重が異なる場合があるため、飼料が変更になった場合や交配期が始まる前には、ホッパー1メモリ、スコップ1杯の重量を確認する。

(2) 添加飼料

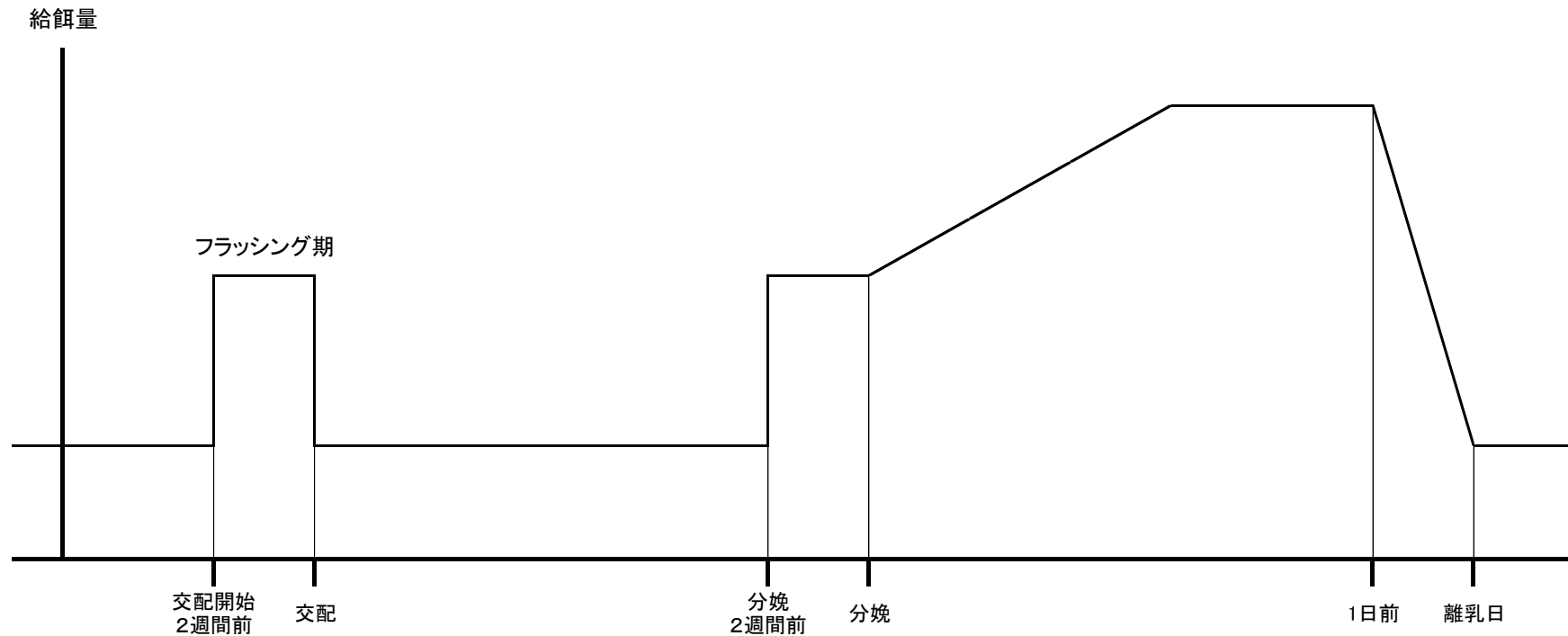
ビタヘルス: 夏場に食欲が落ちている個体に添加する。

パームファット: 痩せすぎている個体に添加する。

参考文献: 豚飼養管理マニュアル〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕、日本飼養標準 豚(2013年版)、繁殖管理ベーシック2005 未経産豚管理のワンポイント (以上)

交配・妊娠期の給餌量

(別紙)



品種	
ランドレース種	交配開始2週間前までと交配後は2.4kgを最小量として、フラッシング期と分娩2週間前からは2.6kgを最小量とする。 ただし、個体のボディコンディションによって増量する。
大ヨークシャー種	交配開始2週間前までと交配後は2.4kgを最小量として、フラッシング期と分娩2週間前からは2.6kgを最小量とする。 ただし、個体のボディコンディションによって増量する。
デュロック種	交配開始2週間前までと交配開始3週間後は2.0kgを最小量として、フラッシング期と分娩2週間前からは2.2kgを最小量とする。 ただし、個体のボディコンディションによって増量する。
ヨークシャー種と 梅山豚	交配開始2週間前までと交配開始3週間後は2.0kgを最小量として、分娩2週間前からは2.2kgを最小量とする。 ただし、個体のボディコンディションによって増量する。

* 授乳期の母豚の飼料給与量は「母豚給餌マニュアル」を参照。

家畜改良センター茨城牧場 給餌マニュアル (子豚)

第2版

令和3年6月

分娩当日＝0日齢

日 齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	～							
母乳不足時	ロブリン	ウィニーミルク																																					
人工哺育時	ロブリン	ウィニーミルク																																					
飼 料		幼豚前期																																					
																		混合																					
																			幼豚中期																				
備 考	↑ 体重測定 性別・乳頭数確認 鉄剤(トンキー)注射 耳刻・尾切(※尾切はランドレース種のみ実施。)		↑ 餌付											↑ 頭数確認						↑ 体重測定	離乳 ※離乳日は25日齢を目安とし、母豚・子豚 の状態を観察し21～30日齢の間で調整する。										↑ 体重測定 乳頭数確認 生殖器確認 豚丹毒接種								

餌の種類と給餌量

- ・分娩直後用代用乳 : ウィニーガンマくん

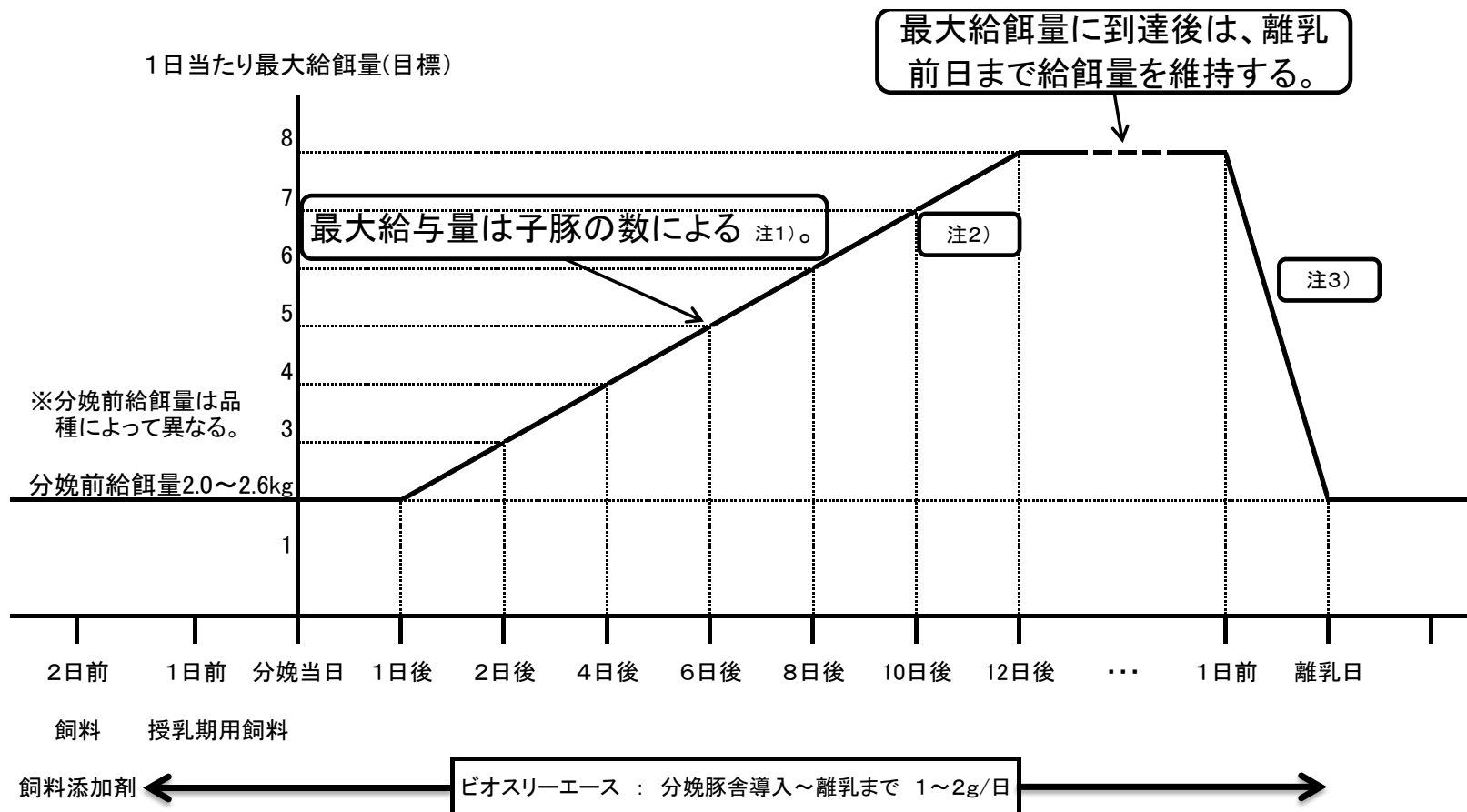
・人工初乳 : ウィニーロブリン

・代用乳 : ウィニーミルク
- 1頭当たり分娩日のみ 1.6g (＋湯 8ml)
- 1腹当たり1日 100g (＋湯 400ml)
- ・幼豚前期 : 1腹当たり1日 220～240g (1頭当たり20g/日)
- ・幼豚中期 : 1腹当たり1日 5.5kg～6kg (1頭当たり500g/日) ※腐らないように様子を見て調整。(以上)

家畜改良センター茨城牧場 給餌マニュアル (母豚)

第2版

令和3年6月



注1) 産子数と最大給餌量

産子数	最大給餌量
3頭以下	3kg
7頭以下	6kg
9頭以下	7kg
10頭以上	8kg

注2) 給餌量の増加

分娩2日後から0.5kg/日ずつ増やしていく。なお、残り飼料が多いときは、給餌量を調整する。

注3) 給餌量の減少

離乳日以降は、2kgに減らす。

(以上)

家畜改良センター茨城牧場 給餌マニュアル (子豚・育成豚)

第2版

令和3年6月

1 発育の目安

発育の目安（体重）	約7～20kg	約20～105kg	105kg～
日齢	30～60日	60～約180日	約180日～
給与量の目安	約0.5～1.0kg／日	不断給餌	約2.5kg／日
飼料区分	幼豚中期用（35日齢まで）、幼豚後期用（35日～60日齢）	育成用	種豚用
飼料栄養価の目安	幼豚中期用（TDN：80.0％以上、CP：19.0％以上） 幼豚後期用（TDN：77.0％以上、CP：17.0％以上）	TDN：74.5％以上、 CP：14.5％以上	TDN：70.0％以上、 CP：12.5％以上
豚舎	子豚豚舎（30kgまで）	選抜（育成）豚舎（30kg～2次選抜）	種雌、雄雌豚舎（2次選抜後～）

2 注意点

- ・離乳豚については、豚舎移動や母豚からの離乳のストレスによる免疫力の低下、餌の過剰摂取による下痢や浮腫病等の疾病が発生する可能性がある。
そのため、給餌量は、注意して餌落下筒で調整する。
- ・飼槽の古い餌は、カビが生えやすく、カビ毒の原因にもなるので、速やかに取り除く。
- ・水が飲めていない離乳豚には、ミルク鉢で水や経口補水液を給与する。
- ・腸内環境を整えるため、離乳後 10 日間は生菌剤（ビオスリー P Z）等を餌に混合して投与する。
- ・105kg 以降の制限給餌（約 2.5kg／日）は、餌車による手やり又は自動給餌ラインの餌落下筒で調整する。

【自動給餌ラインで制限給餌をする場合の
給餌落下筒の調整目安】



（以上）